

議 事 録

一般財団法人 アーネスト育成財団

件 名	技術経営人材育成と活用に関する研究委員会(7回目)	記入者	書記 佐竹右幾研究委員	
日 時	2013年7月30日 15:30～18:30			小平 専務理事
場 所	一般財団法人アーネスト育成財団 会議室			
出席者	西河洋一理事長、小平和一朗専務理事、柴田智宏理事、坂巻資敏研究委員長、浅野昌宏研究委員、大橋克巳研究委員、奥出阜義研究委員、佐竹右幾研究委員(書記)、山中隆敏研究委員	配布先		

1. 配布資料

- (1) 技術経営人材の育成と活用に関する研究委員会(7回)座席図
2013年7月30日(火) 15:30～17:30 (於)財団内会議室
- (2) 技術経営人材の育成と活用に関する研究委員会(第7回)議事次第
- (3) 技術経営人材の育成と活用に関する研究委員会(第6回)議事録
- (4) 技術経営人材育成セミナー(第5回)
テーマ:「技術経営戦略の可視化の試み」(実施) 2013年5月29日(火) 17:00～19:00
講師 児玉文雄(こだま・ふみお)(東京大学名誉教授・芝浦工業大学名誉教授)
講演議事
- (6) 技術経営人材育成セミナー(第6回)
テーマ:「欧州大陸企業の技術立脚型経営」(実施) 2013年6月28日(金) 17:00～19:00
講師 許斐義信(このみ・よしのぶ)
(NPO法人技術経営立脚経営研究所理事長、元慶応大学大学院教授)
アンケート結果
- (7) 技術経営人材育成セミナー(第7回)
テーマ:「日本の大学院MOTコースで経営者が育つか」(予定) 2013年9月3日(火) 17:00～19:00
講師 角忠夫(すみ・ただお)(松陰大学大学院教授、株むさし野経営塾、当財団評議員)
案内
- (8) 「実践経営スクール・基礎コース(西河技術経営塾)」
7月4日開催理事会での承認可決した経営人材育成事業
- (9) 広報
 - ①広告:「開発工学」(7月15日号)表2への広告掲載案内
 - ②記事:「開発工学」(7月15日号)『日本経済の復活と企業家精神の重要性』
(小平、柳田、大橋、柴田)紹介
- (10) 「技術経営人材に求められる知見」(講演録)
「第5章 技術経営戦略入門」
- (11) 高橋誠(2003)『問題解決手法の知識』日経文庫、
日本経済新聞社「発想思考」に関する資料抜粋
- (12) イノベーション等に関する資料
 - ①小平(2007)『イノベーションとビジネスモデル』開発工学、Vol.26
 - ②小平(2011)『変革を理解できない、変革を作れない、その原因を探る』開発工学、Vol.31, No.1
 - ③小平、角(2010)『製造業のサービス・イノベーション研究』開発工学、Vol.30, No.1
 - ④吉田廣、小平(2008)『需要表現とエンジニアリング・ブランド』開発工学、Vol.28

- (13) 技術経営戦略『M&A戦略』(坂巻) 講演録
- (14) 技術経営戦略『途上国市場の攻略について』(浅野) 講演録
- (15) 『技術経営戦略と戦略MM教育』 今回発表資料 (奥出資料)

議事内容

1. 前回議事録の確認

小平専務理事からの配布資料に関して説明がされるとともに、内容の確認と説明がされた。

2. 教材に関する講演と意見交換

(1) 第6章『技術経営リーダーの育成』(担当 小平)

「技術経営人財に求められる知見」(討議資料)の第6章『技術経営リーダーの育成』を小平専務理事が担当し、講演をするとともに、委員との意見交換を行った。

(2) 『技術経営戦略と戦略MM入門』(担当 奥出)

『技術経営戦略と戦略MM入門』に基づいて奥出が講演し、委員等の意見交換を行った。

3. 今後の研究会の予定

3. 1 次回研究会

次回研究会を8月27日(火)に開催する。教材開発に関する研究テーマは、「第7章 プロジェクトマネジメント」に関し、討議する。

- (1) 生産管理、開発管理 (小平)
- (2) 研究開発部門の事業化戦略 (坂巻)

3. 2 9月以降の研究会

- 9月17日：第8章 管理会計：財務会計、企業会計、ファイナンス (小平)
会社経営における人、モノ、金 (浅野)
- 10月15日：第9章 法務：総務、オープンイノベーション、特許 (小平)
会社法務 (大橋)
特許 (坂巻)
オープンイノベーション (山中)
- 11月19日：第10章 技術経営の実践事例 (西河)
まとめ：分類の再考 (全員)

以上の発表タイトルは、仮タイトルであるので、変えても良い。

3. 3 今後のセミナー計画

- 10月～11月：吉久保顧問『イノベーションテーマの発掘とビジネスモデル(案)』
- 1月～2月：川口弘行サイバー大学準教授『CEOが学ばなければならないICTの現状(案)』

以上